

令和8年3月第1回 木島平村議会定例会
《第3日目 令和8年3月7日 午前10時00分 開議》

議長（勝山 正）

おはようございます。

（出席者全員「おはようございます。」）

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1、一般質問を行います。

一般質問の順序については、議会運営委員会において抽選のとおりです。

1番、関達夫議員。

（「はい、議長。1番。」の声あり）

（1番 関 達夫 議員 登壇）

1. 地球温暖化防止は一人ひとりの気付きから

1番 関 達夫 議員

それでは、一般質問をさせていただきます。

1番目でありますけれども、喫緊の課題、日本中で地球温暖化対策に取り組んでいるわけでありませけれども、一人一人の気付きからということで、村のゼロカーボン事業についての質問をさせていただきます。

昨年も地球温暖化の影響で猛暑となり、各地で農産物に高温障害が起き、農家を打撃いたしました。この冬も各地で降雪量が極端でありました。事象は、地球の悲鳴とも言われております。みんなは心配いたしますが、対策は他人事、見て見ぬふりをしているのが現状かと思っております。行政の役割は大きいと思います。

1つ目でありますが、令和6年度は、ゼロカーボンを掲げた事業の目玉でありました役場庁舎の太陽光発電設備設置計画はできず、他の推進事業補助金も利用が少なく事業評価はBと出ております。

本年度でありますが、当初予算に庁舎の太陽光発電設備を計画いたしましたけれども、年度途中でできないと判断されました。

今は年度中でありますけれども、各種温暖化対策事業はどうだったのか、評価すべき点、反省すべき点は何か、お伺いしたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

それではお願いいたします。

「温暖化対策の評価及び反省点」ということでございますけれども、公共施設への太陽光発電設備の設置などの取組につきましては、昨日の湯本議員にもお答えしたとおりで、一部、今後の課題として残っております。

また、再生可能エネルギーの一つであります水力発電事業につきましては、民間事業も含めて引き続き進めてまいります。

各家庭の設備設置支援につきましては、周知・啓発が足りていなかったと感じておりますので、今後、村民の皆さん一人一人にごみの削減も含めた、広い意味での温暖化対策の取組について周知・啓発を積極的に進めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

昨年度始まりました第7次総合振興計画、ご存知だと思いますけれども、その66ページに温暖化対策の事業がございますけれども、この中に「村民一人ひとりが地球温暖化を自分事に感じてもらうよう意識醸成を図っていく」と掲げてあります。今、「周知が足りなかった」ということでありますので、令和5年、令和6年、令和7年と続いている事業が進んでないということは、大いに反省すべきではないかと私は思います。

このことについて、私は令和6年12月にも太陽光発電事業の補助金ということで質問させていただきました。そのときも「県の補助金も同時にあるから」というようなことだったんですが、何とか倍増して普及を図れないかということで、お話をしたわけでありましてけれども、物事が進んでない状況であろうかと思えます。

周知が足りなかったということでありましてけれども、そのほかに何か取り組まれた内容ございましたら、やったけども駄目だったということがあったら、教えていただければと思います。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

「そのほかの取組」ということでございます。

昨日の答弁でもお話をさせていただきましたとおり、公共施設につきましては、各施設のLED化を進めております。おおむね8年度で完了する予定でございます。令和8年度進めていきたいと思っております。

それと北信地域振興局の方で、雪国に対する太陽光発電のガイドブックを作成いたしまして、それに基づいて北信地方の方でも、雪国の太陽光設置のガイドブックもできておりますので、そちらについても今後、併せて周知を図っていきたくと考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

それでは、2項目目に移らせていただきますが、温暖化対策は喫緊の課題でございます。日常生活を見直し、ごみを減らし、資源のリサイクルも重要事項でございます。田舎では車なしには生活はできませんけれども、このガソリンの利用をそれぞれ考えたいと思います。CO₂排出ガス削減数値は、村では計算できませんが、これは達成しているという報告であります。8年度の事業への反省点を生かしながらの事業の意気込みをどのようにされるのか、お伺いしたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

ご質問のとおり、村単体でのCO₂の排出量の計算はできませんが、我々一人一人が普段できる範囲で二酸化炭素の排出削減に取り組んでいくことは重要です。

「意気込み」ということでありますけれども、公共施設での太陽光発電の設置については、引き続き

き検討を続けてまいります。また、各家庭や事業所での温室効果ガス排出削減などの取組をしていた
ため、補助金などの情報提供や取組の周知・啓発を進めてまいります。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

次年度が既に始まるようなものでありますけれども、「周知・啓発が足りなかった」ということであ
りますので、もうちょっと具体的な内容を聞きたいと思ったところでありますけれども。

新年度の予算計上を見させていただいても、若干金額的にそれぞれの項目で少なくなっていると思
いました。太陽光設置の補助等々、当初120万円くらいあったのが、今年は半額程度になるようです。
ただ、リフォーム補助も一緒でありますし、ペレットストーブ、生分解性マルチ、こういったものを
掲げてありますけれども、内容的なものは前年度踏襲かなと思います。

それで今ここに教育長がおられますけれども、この間、役場へ行ってお話させてもらいましたけれ
ども、あそこに立派なビラが何枚も差し込んであるんです。このビラを持って学校へ行って、子供た
ちに話をするようなこともできないのかというような話をさせてもらったんですけれども、意気込み
の中にそういった文言はなかったと思うんですが、そういったお考えはいかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

それではお答えいたします。

子供への周知ということで、「学校へ行って啓発を行う」ということでございます。

当然そういった活動も重要だとは思っております。まずは広報、ふう太ネット等を通じて広く村民
の方に周知をさせていただきまして、啓発をしていきたいと思っております。

長野県の方でも、今年度から新たに補助制度の拡充をされておりますので、そういった制度を啓発
していきながら、可能なところで周知をしていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

一般質問には書いてないんですが、村長はご自宅から役場まで距離的にどのくらいあるんですか。
駄目ですか。私が思うには1km2kmの範囲だったら、できるだけ歩こうと理解をしているんですけれ
ども、そんなことで、役場の皆さんも1km2km程度の距離でしたら、歩かれる方もいらっしゃいます
けれども、せめて週に1回か2回は徒歩で通勤するとか、少しでも地球に優しい活動をしていただい
ければなと思いました。これは余談であります。

3項目目に移らさせていただきますが、県は2050ゼロカーボン、村でも同じでしょうけれども、掲げ
てやっておられます。今年40億円余りを基金に積み上げるという新聞記事もございました。

我が小さな村も一人一人ができることをやらないと、ますます住みにくい環境になってしまうと思
います。今各地で「気候市民会議」との名称で団体をつくり、活動が行われていることはご承知かと
思います。このことを一つのヒントと捉え、同じことをしろとは私は申し上げませんが、現状
の温暖化対策事業の進め方を見直したらどうかと思います。こういったことの事業に取り組みされて
いるところがありますが、村長は、温暖化対策を先導する役目があるわけがございます。このことにつ

いて、どんなふうに思われますか。ご意見を聞きたいと思います。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

現時点、県のように「村民会議」というものを計画しているわけではありませんが、先ほども話がありました予算化している事業については、太陽光発電施設の補助、それから住宅のリフォーム中で省エネ化の補助、それから、小さいですが、農業用の生分解性マルチを使う場合の補助などを行っております。そのほか、村の中で知っている人もいますが、馬曲川での民間による水力発電事業、それから池の平での蓄電事業ということで、これらについても、再生可能エネルギー、それから電力、資源の有効活用になるものであります。

それと広い意味では、今カヤの平でブナの植林を再整備を行っていますが、それらについても、森林を通して、自然環境の再生だけではなく、言ってみれば、温暖化対策の一環にもなっていると思っております。

村の事業だけでなく、村の中でそういう取組をされていることが温暖化対策に繋がっていると、そういうことに参加することも一つはそういう意味があるということをも含めて、村民の皆様にも更に周知をしていければと思っております。

またそのほか、予算の範囲内となりますが、具体的に村民の皆さんがこういう形で温暖化対策に関わりたいという事業があれば、予算を通して事業化していければと考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

村で掲げる事業はそれぞれ広報等で周知されるのでわかりますけれども、私が言っているのは、広く村民の皆さんに、温暖化対策をこうやっていこうとか、こういう気持ちでやっていくというようなことをみんなが参加してやるということも大事ではないか、それが周知になるのではないかと思ったわけです。それぞれの皆さんからどんな意見が出るかわかりませんが、温暖化対策について私はこういうものを考えてこういうことをやっているんだという、そういう市民会議的な発想から、意見を募りながら村の事業を進めていくのがいいのではないかと思います。

先ほどあったように、ZEH（ゼッチ）、ペレットストーブ、生分解性マルチなどいろいろあります。これも大事なことなんですけれども、最初に申し上げたように、一人一人の村民の気付き、そういう気持ちが大事ではないかと思っておるわけですけれども、今、村長からいろいろと事業の内容を説明いただきましたけれども、このことで十分村民の意識醸成ができるかどうか、改めてお伺いしたいと思います。十分でしょうか。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

「改めて」ということでありますので、先ほど申し上げましたとおり、村の事業、村民の皆さんが行う事業、民間の企業が関わっている事業、それらについて改めてお知らせすることで、村の中にこういう動きがある、そしてまた、自分がどういうふうに関わることができるのか、それをまた村民の皆さんにも考えていただく。そういうことに繋がるような啓発を行って、村として関わっていきたい

と考えております。

議長（勝山 正）

関議員。

2. 集落の維持は誰が担う

1番 関 達夫 議員

それでは、次の質問に移らせていただきます。

集落の維持は誰が行うかという題でございます。

私は、議会一般質問で事あるごとに、区に対し補助金、補助率、交付金を増やさないかということをお願いしてきました。答弁に当たっては「補助金などに頼らない地区づくりを考える」ということでもあります。

村づくりは人づくり、人口の減少、高齢化、世帯の減少、働き手の不足、集落機能を維持しつつ、金銭支援がないのならそれ以外の支援、負担軽減策をお示しにならないと、集落は持続不可能になってしまうと思います。第7次総合振興計画には「集落と行政の役割を見直し、時代の流れに対応した地区づくりを支援する」と書いてあります。

先日、お配りいただいた過疎地域持続的発展計画を見させていただきましたけれども、12年までに行うという認識なんではないでしょうか。明日からすぐ取りかかれる事案がいくつか掲げられているように思います。早期に確実に行っていただきたいと思います。

1つ目ですが、多くの村民の皆さんが参加する地区づくり懇談会あるわけではありますが、集落の意見要望を聞き、答弁されておりますけれども、村づくりの多様な意見を日頃から聞く場が少ないように私は感じております。区長、村民が村に対して気軽に意見を言える状態になっているかどうか。村長は常に聞く耳を持って地域に出かけ、実際を見ていらっしゃるかどうかが。お聞かせいただきたいと思います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

村では、地区づくり懇談会等で皆さんの多様なご意見を伺う場としているわけではありますが、いただいたご意見や要望などについては、共通すると思われるものについては区長会等で情報提供していますので、参考にさせていただければと思います。

また、各区に地元出身職員を中心として、地区担当制を設けています。区長さんも地元の職員ということで、気軽に意見や要望を言いやすい環境になっているのではないかと感じております。ぜひ気軽に担当職員に意見を出していただきたいと思います。

私自身も各団体や集まりなどに顔を出させていただいております。今後もいろんな方面で、また、出向いて意見を聞きたいと思いますが、地区づくり懇談会についても、最近なかなか実施してない地区もあります。ぜひまた各区の役員さんにはちょっと大変ではありますが、段取りをしていただければまた出向いていきたいと思っています。

ちなみに、今年度の行政交付金については予算額を増額しておりますので、またその辺はご審議いただきたいと思っています。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

多くの若い方の話を聞くということが大事かと思えます。

余談になりますけれども、議会でも若い方の意見を聞こうということで、過日そのような催しも行ったわけでありまして、大変重要であるという認識であります。

それと、役場の庁舎の中で村長がいる場所は一番奥でありまして、なかなか事務所のところを歩いて、村長室まではなかなか遠い。距離的にも物理的にも精神的にも遠いように思っております。そんなことが、なかなか皆さんの声が届かないということもあるのではないかと思ったりもしております。

どこかの県庁では、ガラス張りの知事室を設けたというところもありましたけれども、ぜひ聞く耳を持って、お話を聞いていただきたいと思っております。

2項目目でありまして、集落は地域づくり計画の現状と課題を話しております。世帯の減少でソフト・ハード面の事業実施のための区費の徴収は大変重いものがあります。どこの地区も悩みがあります。小集落への支援が最も重要だと思っておりますが、金銭支援以外に何かあるか、お考えを教えてくださいたいと思っております。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

12月の一般質問でお答えしておりますが、区長会などを通して各区の課題を再整理し、可能な支援があれば実現していきたいと考えております。

ただし、各区でもこれまでやってきた方法や行事など、負担軽減ができるものがあるのか検討していただく必要もあるのかなと考えております。

産業企画室でも移住の際に、参考資料として各区の区費の徴収方法や行事など一覧表を作っております。参考にいただき、負担軽減ができるものがあれば、その中でまた区民のご意見を聞いていただければと思います。その際の調査内容などご相談にも乗ることができますので、またぜひご相談いただければと思います。

いずれにしても、各区の状況課題等について改めて伺い、可能な支援を検討していきたいと考えております。

これまでも村の中に従来あった区の役職等を減らすなど、それからまた、区長さんの会議をできるだけ減らすなど、可能なものについて行ってきたわけでありまして、それらについて、またいろんなご意見をいただければと思っております。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

いずれにしても、小部落になってきますとなかなか区の運営自体も大変厳しいところでありまして。何かやるにつけても人手がない、手間がない。それと、区長も若くなると、なかなか区の行事自体を先頭に立ってやっていくというのも難しくなったりしてきております。

なんとか地区の元気を取り戻せないかというようなことで、いろいろ考えているんですけれども、なかなか妙案はないところでありまして。

地区を元気にする策、村長いろいろ言われましたけれども、そのほかに、本当の地区の元気を取り戻すにはリーダーづくりなり、企画考える人が必要かなと思っております。そのようなリーダーづくりは大事かと思っておりますが、その辺の意見について、何かお考えがあったら教えていただければと思っております。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

その辺については、そういうご意見として伺っていきたいと思います。

前段にありましたとおり、区の中でも、村の中でもやはり役職そのものを重荷に感じているという意見もあります。その中で本当に自主的にやりたいという人がいればそういうことも可能ですが、全村的にリーダーを育てることは、また新たな役職に繋がっていくのかなというような心配もあります。そしてまた、区の中で、なかなか難しいというご意見もわかりますが、やはり区としての独自性、実践もしっかり担保する、しっかり継続していただくということも必要なかと思っております。

そういうご意見はかなり伺っておりますので、どういう形がいいのか、しっかりと検討していきたいと思います。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

なかなか人口減でそれぞれの集落大変だという認識は一緒かと思うんですが、どういった形で村の運営なり、集落を元気づけていくかということは大変難しい点ばかりだと思うし、こういう方向でという明確なことはないかと思いますが、いずれにしても、あと9年、10年で、推計でいいますと3,400人に人口が減っていき、65歳以上が47%ということになります。

47%が3,000人台初めだと、もう村の機能自体、集落機能自体がどうなのかと思えてなりません。これからどんなふうになるかわかりませんが、村の形、あるいは集落の形、5年後、10年というずっと向こうになってしまいますけれども、近々に、どういった形で作っていくのか、運営していくのかというあり方を再度形作っていかないと、7次振興計画は、ただ消滅集落に向かっていくような計画ではまずいかと思っております。5年後、10年後、そんなに向こうにいかなくても、当初8年間の第7次の計画を立ててあるわけですけれども、目標数値KPIを示してあるかと思っておりますけれども、私のまとまらない話でありますけれども、村長どうでしょうか、5年後、10年後の木島平村は、明るい未来、元気な村づくりができると思われませんか。大丈夫ですか。気持ちあったらお聞かせください。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

村の活気はやはり各地区の活気で成り立っている、個人、地区が活気あることがやはり村全体の活気に繋がってくるだろうと思います。そういう意味では、村としてもできる支援はしていきたいと考えていますが、現時点では先ほど申し上げたとおり、過剰な負担になっている役職を減らす、会議の出席を減らす、そういう形で区の役員さんの負担を減らすことに今取り組んでおります。

以前もちょっと申し上げたかもしれませんが、ある区の中で、集落支援員というようなことで、相談に行ったわけですが、逆に集落支援員を付けると、その役割を押し付けられるという言い方はおかしいですが、区の中でやらなければならないことが逆に増えてくるのではないかということで、むしろ、区の中では、区の事業を減らしたいという意見だったと思います。結果的に、集落支援員という話は、そこで消えてしまったわけでありまして。

いずれにしても、区によっていろいろな状況が違いますので、また改めてそういう方法についても検討していきたいと思います。

議長（勝山 正）

関議員。

1番 関 達夫 議員

村長の仕事は、村民に仕事を与え、生活をさせる。そして、年貢を払わせる。お金を稼げる場をつくることで子供、若い人、老人が住み、集落ができると、私はこんなふうに思っております。

先ほど、集落支援員の話が出ましたれども、あとで山崎議員がこのことについて質問を予定されているようでありますので、山崎議員にお任せしたいと思います。

以上、私の質問を終わらせていただきます。

議長（勝山 正）

以上で、関議員の質問は終わります。

(終了 午前10時31分)

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は、午前10時40分とします。

(休憩 午前10時31分)